

講義名	心理学演習（援助に活かす発達検査）		
科目区分	学部フリーゾーン		
担当教員	藤本 次郎		
開講期・曜日・時限	後期 月曜日 4時限		
	2017年度 人間社会学部 人間健康学科 / 2017年度 人間社会学部 観光学科 / 2017年度 人間社会学部 人間社会学科 / 2017年度 経済学部 経済情報学科 / 2017年度 経済学部 経済学科 / 2017年度 商学部 マーケティング学科 / 2017年度 商学部 経営学科 / 2016年度 人間社会学部 人間健康学科 / 2016年度 人間社会学部 観光学科 / 2016年度 人間社会学部 人間社会学科 / 2016年度 経済学部 経済情報学科 / 2016年度 経済学部 経済学科 /		
履修開始年次	3年生	単位数	2
		講義コード	14046

主題と概要

福祉現場等において相談援助にかかわる者にとって、対象者の支援計画（ケアプラン）の作成は必須事項の一つである。支援計画の策定のためには、対象者を取り巻く様々な状況についてのアセスメントが必要であるが、特に、対象者が児童、知的障害あるいは発達障害児・者の場合には、発達や知能の心理アセスメントが不可欠であり、発達検査等の応用能力が求められる。

本講義では、相談援助場面で上記のような要請に応えられるために、相談援助者に必要な代表的な発達検査と知能検査の実施技能と解釈能力、ならびに検査結果の活用能力の習得を目指す。

到達目標

- ・発達と発達障害についての知識が習得できる。
- ・代表的な発達検査の実施技能と解釈能力が習得できる。
- ・知能と知的障害についての知識が習得できる。
- ・代表的な知能検査の実施技能と解釈能力が習得できる。
- ・相談援助現場において発達検査と知能検査の結果を活用する基礎能力が習得できる。

提出課題

- ・講義ごとにコメントシートの提出を求める。

評価の基準

- ・授業中の施行法演習ならびに分析演習で習得度をチェックする。
- ・受講態度とコメントシートの内容で20%、習得度チェックで20%、期末試験の成績で60%の配分とする。

履修にあたっての注意・助言他

- ・将来、社会福祉現場、特に児童福祉領域あるいは障害者福祉領域、または医療福祉領域で援助の仕事に就くことを目標にしている学生に受講を推奨する。
- ・予定している発達検査・知能検査を完全に習得するためには、授業に全出するだけでなく、自主学習が欠かせないので、予習・復習を心がけること。
- ・また、より理解を深めるため、ボランティア活動等を通じて児童や障害児・者との交流経験をもつことを推奨する。

教科書

・使用しない。

プリント資料及び参考文献

- [プリント資料]
- ・必要に応じて授業中に資料を配布する。
- [参考文献]
- ・検査マニュアルは貸与する。
 - ・参考文献は、講義内で適宜紹介する。

授業計画

相談援助現場における発達検査の応用の意義
 発達・知能と発達障害・知的障害の理解
 発達検査の基礎知識
 新版K式発達検査2001：施行法演習
 新版K式発達検査2001：施行法演習
 新版K式発達検査2001：施行法演習
 新版K式発達検査2001：分析演習
 新版K式発達検査2001：分析演習
 新版K式発達検査2001：分析演習
 新版K式発達検査2001：分析演習
 知能検査の基礎知識
 WAIS- 知能検査：施行法演習
 WAIS- 知能検査：施行法演習
 WAIS- 知能検査：分析演習
 WAIS- 知能検査：分析演習

予習・復習

予習：児童、知的障害者、発達障害者等、援助対象者の心理・行動特性について予習しておくこと。また、可能であれば、児童福祉施設、障害者支援施設等、関心のある福祉施設の見学やのボランティア活動に参加し、援助対象者の現状を知るとともに援助対象者との交流を経験しておくこと。

復習：授業中に配布する資料を基に、検査の施行手順、教示、判定基準について復習すること。また、結果の整理につい

備考